

令和 4 年度計画の達成状況に基づく点検・評価報告書

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
9. 社会連携・社会貢献 【計画 48】（企画部） 医療・健康・保健面において地域を指向して教育研究活動を推進するとともに、地域の課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる地域コミュニティの中核的存在としての機能強化を図る。 「計画達成のための方策」 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況 【計画 49】（企画部・各事務部） 大学が所在する地方自治体との連携を強化し、共催・後援による公開講座等や各種事業を推進する。 「計画達成のための方策」 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。 「評価指標」 ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数	【年度計画 48】 社会連携・社会貢献の取組の中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況 【年度計画 49】 大学が所在する品川区、世田谷区、目黒区、立川市、和歌山市、船橋市等との共催・後援による公開講座の開催等を推進するとともに、産後不安を抱える母子へのケアに高度な助産実践力をもって貢献していく「産後ケア事業」等を推進する。 「評価指標」 ・自治体と連携した公開講座や各種事業の開催数及び参加者数	Ⅱ	・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進 DX プロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを 5 月に設置し DX の推進のほか、関連して社会連携・社会貢献の取組について検討を行っているが、全学的な体制整備の構想案の策定まで検討できなかったため、引き続き令和 5 年度において、各部局の取組状況を確認することも含め、検討を継続することとした。				
		Ⅳ	・公開講座の実施については、令和 4 年 6 月 15 日に開催した「全学公開講座委員会」において、コロナ禍ではあるが参加者数を増やすことを意識し、大学の PR として学生募集につながる取組を行うことや、地域の特性・ニーズを分析した上でテーマを決め、事前の広報活動や当日の人員配置等についても各キャンパスが主体的に対応すること等を定めた令和 4 年度公開講座実施方針について承認され、それぞれのキャンパスにおいて実施された。  令和4年度公開講座実施結果.xlsx ・「産後ケア事業」の推進については、【計画 66】を参照のこと。 ・また、各キャンパスにおいて以下のとおり地域性を考慮した各種事業を推進した。（五反田事務部） ・医療保健学部看護学科と品川消防署が連携を行い、地域・社会貢献を目的に学生消防団員の募集を行い、8 名の学生が入団を希望した。令和 4 年 12 月 13 日には品川消防署長等が来校し、辞令式を実施した。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
【計画 50】（企画部・各事務部） 保健医療関係機関等との連携協力により、医療現場の今日的な課題解決等を図るため、各種連携事業等を推進する。 「計画達成のための方策」 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各	【年度計画 50】 独立行政法人地域医療機能推進機構や国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定を締結後、地域医療の課題やニーズに的確に対応するため人事交流、共同研究等の各	Ⅳ	・五反田キャンパスの近隣に位置する品川区立第三日野小学校より 8 名が生活学習の一環で来校し、地域看護学領域の教員が施設見学やインタビューに協力した。 ・医療保健学部看護学科の渡會教授が中心となり、東京都の一般社団法人「住民とともに活動する保健師の会」からの委託事業を実施してきた。本学との連絡がより可能となり、地域貢献・関連研究等が促進されることを期待し、医療保健学部看護学科の付属組織として「地域健康づくり研究・教育センター」を設置することの検討を行った。（センターの設置は令和 5 年 4 月より） 本センターは、品川区をはじめ、全国及び各自治体や地域と連携協同して、保健・健康づくりの発展に関する業務等を行う予定である。 （世田谷事務部） ・世田谷区教育委員会と連携して「手の消毒効果について」の体験学習を 2 月 13・18 日に三宿小学校で実施。児童参加 32 名/各日、教員 1 名、学生 7 名参加。 （東が丘事務部） ・【計画 59-1】～【計画 59-3】を参照のこと。 （立川事務部） ・立川市と連携して、8 月 25 日に「アロマでせっけんづくり」という公開講座（定員親子 20 組×2 回）、12 月 1 日 0 に「やってみよう！自分でできるストレスマネジメント」（定員 50 名）という公開講座を実施した。どちらも好評であり、定員以上の申し込みをいただいた。 （千葉事務部） ・【計画 61-1】を参照のこと。 （和歌山事務部） ・【計画 62-1】を参照のこと。 （東が丘事務部） ・令和 4 年 1 月 31 日に国立研究開発法人国立成育医療研究センターと連携・協力協定を締結した。 ・人事交流では臨床教授 4 名、非常勤講師 11 名が就任すると共に立川看護学部教授として入職している。実習施設として大学院助産をはじめ学部・学科全体で延 74			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
種協働事業等を推進する。 「評価指標」 ・独立行政法人地域医療機能推進機構と国立研究開発法人国立成育医療研究センター等との連携協定の締結や各種協働事業等の推進状況 						

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数 【計画 52】(学長戦略本部、各事務部) 本学を卒業した医療人等の生涯学習の場づくりを支援するため、 「ポータルサイト」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で情報交換等が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設し、継続教育の機会を提供する。 「計画達成のための方策」 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。 「評価指標」 ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数 【計画 53】(各事務部、学生支援センター)	染制御学企業人支援実践講座」等の受講者数 【年度計画 52】 「一歩先を歩む医療人のポータルサイト(仮称)」を開設し、学部卒業生・大学院修了生等が、オンライン上で研修案内や情報交換が行えるよう体制を整備するとともに、看護職に対する生涯学習支援講座を開設する。 「評価指標」 ・「ポータルサイト」の設置状況及び看護職に対する生涯学習支援講座の開催数及び参加者数	Ⅱ	保健医療機関等において 5 年以上感染管理に従事した経験を有する看護師を対象に平成 22 年度から実施しており、令和 4 年度で第 13 回となり、以下のとおり実施した。 期間：令和 4 年 4 月 23 日（土）～10 月 29 日（土） 受講者数：23 名 2. 令和 4 年度感染制御学企業人支援実践講座 企業等において感染制御に関する業務に携わっている者や医療機器や医薬品等の製造・販売に関連する企業を対象に、感染制御学の基礎と最新の情報や医療現場の取組などを学ぶ実践的な講座として平成 25 年から実施している。 期間：令和 4 年 10 月 1 日（土）～12 月 3 日（土） 受講者数：2 名 ・学長直轄の「学長戦略本部」に、「学長戦略本部教学マネジメント・推進 DX プロジェクト要綱」に基づく同プロジェクトチームを 5 月に設置し、ポータルサイトの開設の検討を行っているが、ニーズ調査等も必要であるため、引き続き令和 5 年度に検討を継続することとした。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
医療系の大学で学ぶ学生として社会貢献・社会活動に関する意識の涵養及び学習意欲の向上を図るとともに、地域との交流を深め地域社会の発展に寄与するため、学生のボランティア活動への積極的な参加を奨励する。 「計画達成のための方策」 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	【年度計画 53】 組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備する。 「評価指標」 ・関係規程の整備及び支援体制の整備状況	Ⅲ	・組織的なボランティア活動を展開するための中核となる支援体制や仕組みを整備するには至っていない。ボランティア活動は地域性が高く、イベントの発生ペースで募集があるため、学部を跨いだ組織横断的な取り組みが行いにくく、効果もあり見込めない一方、事務部単位では地域性を踏まえた活動が行われた。 （五反田事務部） ・医療保健学部看護学科では、品川区の在宅介護支援センターとの連携で有志が在学ケアチームの一員としてボランティア活動を実施している。ボランティア活動を通じて連絡ノートの記載や身体の状態に応じた観察など看護学生として貴重な体験ができる。 （世田谷事務部） ・学生ボランティアの支援体制は事務部が世田谷キャンパスの 2 学科共通の窓口となり、以下の活動を実施した。①世田谷区と連携し区立の教育機関における部活動等支援要員募集の定期的な案内実施（1 名参加報告有）、②キャンパス周辺の地区ボランティア団体広報誌等の掲示。 （東が丘事務部） ・学生ボランティアの支援体制は学生生活委員会及び事務部が窓口となり以下の活発な活動を実施した。①目黒消防団活動 168 名、②東京医療センター七夕飾りイベント 16 名、③目黒区民まつり 19 名、④東京 2020 パラリンピック 3 名、⑤アロマ石鹸づくり 3 回 18 名、⑥「東が丘保健室たより」年 1 回発行、⑦教員 2 名が各々目黒区の生涯学習推進協議会メンバー、自殺対策推進会議会長に就任し目黒区との交流を強化した。 （立川事務部） ・立川看護学部では、包括連携協定を結んでいる立川市関係を中心として、立川市消防団活動（151 名）、立川市ハーフマラソン（76 名）、立川パートナーシップフェスタ（21 名）、パートナーシップ合同訓練&ウェルカム警視庁（27 名）、立川市赤十字奉仕団（29 名）など、多くの学生がボランティアとして参加した。 （千葉事務部） ・千葉看護学部で 2 回目の開催となる地域交流イベントに学部生 64 名が運営ボラン				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分			評価 区分	
【計画 54】(学長戦略本部・総合研究所、研究協力部) 教育・研究の充実・発展を図るため、産・学・官等との共同研究や受託研究の推進及び科学研究費等補助金の申請等により、外部資金を確保する。 「計画達成のための方策」 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。 「評価指標」 ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数 【計画 55】 【計画 32 の再掲】 (国際交流センター、研究協力部、各事務部) 学生・教員に係る海外派遣・海外研修	【年度計画 54】 「学長戦略本部」を中核として、共同研究や受託研究のニーズを発掘し、大学研究者が有する研究シーズとのマッチングを支援するなど、支援体制を強化する。 「評価指標」 ・共同研究、受託研究の実施件数及び科学研究費等補助金等の申請件数及び採択件数	Ⅲ	ティアとして参加した。また、同イベントの企画である「からだのお話し会（未就学児がからだについて学ぶお話し会）」に学部生 8 名が参画した。 船橋市が実施する「ふなばし夏のボランティア体験事業」の情報を学生に配信し、学生が夏季休暇中にボランティア活動を行えるよう支援した (和歌山事務部) ・日赤和歌山県支部との連携、協力のもと「東京医療保健大学和歌山看護学部学生赤十字奉仕団」を結成し、献血活動、地元のこども食堂の運営支援など奉仕団活動を精力的に行った。また、立川看護学部が参画し活動を行っている立川市赤十字奉仕団の学生や担当者との意見交換会を開催するなど、学部を越えた交流を行った。 ・地元で 3 年ぶりに開催された和歌山市社会福祉協議会主催の「わかやま社協まつり」に学生、教職員が参加し、高齢者疑似体験等のコーナーを担当し地域住民の健康・福祉に貢献した。 ・令和 4 年度の共同研究の新規契約件数は 5 件(令和 3 年度：7 件)、受託研究の新規契約件数は 8 件(令和 3 年度：5 件)であり、コロナ禍ではあったが、受託研究については昨年度を上回る件数を確保したところである。 ・また、令和 4 年度科学研究費等補助金等の申請件数は 41 件（令和 3 年度：30 件）、採択件数は 8 件（令和 3 年度：7 件）であり、申請件数・採択件数とも前年度以上の件数を確保したところである。			

第3期中期計画	令和4年度計画	令和4年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
等を実施するとともに、オンラインを活用した海外大学等との交流を拡大する。また、海外からの留学生・研究生等の受入れを推進し、大学の国際化を進め、国際的視野を持つ医療人の育成に努め、地域貢献及び地域の国際化に寄与する。 「計画達成のための方策」 1. 学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れを積極的に行うため、海外の大学や医療機関との交流締結を更に推進する。特に、国際交流センターでは従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間の提携を行う。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 「評価指標」 ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数 ・国際的な講演会等の開催状況	【年度計画55】 1. 従来から協力関係にあったハワイ大学とシャミナード大学との大学間の提携を行う。 2. 国際的な講演会の開催など積極的に推進する。 「評価指標」 ・海外大学との交流締結数及び学生・教職員の海外派遣・海外研修等の実施及び海外からの留学生等の受入れ数 ・国際的な講演会等の開催状況	III III III IV III	(国際交流センター、研究協力部) 1. ハワイ大学とシャミナード大学との大学間の正規の提携は、コロナ禍等の影響により先方の受け入れ状況等が整わなかったため、提携までには至らなかった。引き続き令和5年度に達成できるよう準備をする。オーストラリアのグリフィス大学とは令和2年に公式提携を結んでいる。研修実施状況としては、令和4年9月にグリフィス大学オンライン研修(OSAPatGU)を、令和5年3月にはオンラインハワイ研修(OSAPinHI)を実施した。OSAPatGUには17名が参加、OSAPinHIには本学学生及び教員39名が参加した。後者にはシャミナード大学の学生12名も参加して交流を行った。 2. 国際的な講演会に関しては、リレー講演会「世界の医療を知ってみよう」をテーマとして医療保健学部看護学科と共催した。令和4年12月から令和5年2月までの間に、全学を対象として、オーストラリア、ニュージーランド、イギリスの医療に関する講演会を3回オンラインにて実施した。学生、大学院生、専攻科生、教員が、多数参加して非常に好評であった。各回の参加者数は、1回目リアルタイム86名/オンデマンド67名、2回目リアルタイム61名/オンデマンド42名、3回目73名/オンデマンド22名であった。 (世田谷事務部) ・9月にオーストラリアのグリフィス大学(学生6名/教員3名)、3月にハワイのシャミナード大学(学生4名/教員2名)とオンライン交流を実施。 (立川事務部) ・オーストラリア研修への参加は、4年生1名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は13名(3年11名、1年2名)であった。 (千葉事務部) ・東京医療保健大学総合研究所の依頼に基づき、ヘルスシステムデザインユニットが主導する産科領域の働き方改革に関する研究における、海外事例の収集と日本への適用方策を検討するために、千葉看護学部の教授1名が、3/20-22の期間で台湾医療施設を視察した。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
○医療保健学部看護学科 【計画 56-1】㊦ 地域貢献事業の展開及び地域活動を通して学ぶプログラムを実施する。 「計画達成のための方策」 1. 令和 5 年まで年間 9 回（大学体育館 5 回、八潮 4 回）の健康づくり事業を継続実施する。 2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 「評価指標」 ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年 9 回（五反田 5 回、八潮 4 回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年 20 名の学生実習）	【年度計画 56-1】 1. 令和 5 年まで年間 9 回（大学体育館 5 回、八潮 4 回）の健康づくり事業を継続実施する。 2. 看護の統合実習において、地域の子育て支援事業に参加する 3. 地域ボランティアについて、学生に参加を呼びかける。 「評価指標」 ・地域保健活動事業「健康づくりの会」の実施継続（年 9 回（五反田 5 回、八潮 4 回）） ・地域の子育て支援事業との協働（実習を通して）の継続（年 20 名の学生実習）	Ⅲ ・9 月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生 1 名/教員 2 名支援教員）、3 月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生 2 名・大学院生 1 名・教員 1 名/教員 2 名支援教員）とオンライン交流を実施。「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3 回）を支援した。 （和歌山事務部） ・学術交流協定を締結しているベトナムナムディン大学の卒業生（介護士）他との交流会を開催、学生 13 名が参加し国際的な看護や文化、海外の医療等を学び、有意義な異文化交流を行った。	Ⅲ 1. 健康づくり事業をコロナ禍でも継続できるよう、開催方法をオンラインへ、実施回数を 5 回（2 会場合同）へ変更し、また実施内容に学生企画（学生によるミニ健康講座）を取り入れるなど、工夫しながら実施した。参加者は 50～80 歳代の延べ 82 名（実人数 27 名）であった。学生はオンラインであっても地域住民と交流する機会が得られ、この関わりを通し実際の健康・生活状況について学ぶことはできた。一方で、オンライン開催のため参加できなかった住民は多く、学生や参加者からも会場開催を望む声が聞かれており、会場開催を実現することが課題である。 Ⅳ 2. 「NPO 法人ふれあいの家 おばちゃんち」についての講義を受けた後、学生（20 名）は 2～3 名に分かれ「にじっこ」、「しながわこども冒険ひろば」、「そとぼ～よ！」等の子育て支援事業へ参加した。未就学児や小学生との外遊び、保護者との交流を通じて地域における子育て支援の実際を学んだ。 Ⅳ 3. 地域ボランティアについて ・東五反田地区夏祭りにおいて、学生 2 名がボランティアとして参加した。 ・東五反田ファーム・エイド（東五反田倶楽部・NTT 関東病院地域連携室等と連携）に、学生ボランティア 19 名、教員 2 名参加 ・部活動 2SK 会（青少年の性と健康を考え活動する会）の学生（1-4 年生で 103 名所属）が、東京都認定資格「東京都エイズ・ピア・エデュケーター」の資格を本年度 8 名が取得し、中学高校計 3 校において講演を行った。 ・品川区との締結において、健康大学しながわ 運営・評価、震災対策計画 会議における運営計画助言を行った。 ・品川区大崎第一地域センターにおいて、町会・自治会研修会に地域絆づくりの講演			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
【計画 56-2】㊦ 日本バングラデシュ友好病院（J B F H）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（J B F N I）における指導者層を対象とする研修を実施する。 「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（J B F H）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（J B F N I）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和 5 年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。 「評価指標」 ・研修の実施状況 ○医療保健学部医療栄養学科 【計画 57-1】㊦ 地域高齢者の身体機能の改善である食の自立と減塩対策の実践を研究する。 「計画達成のための方策」 医療栄養学科の学生が、臨地実習をした自治体を中心に、ボランティア活動や企画提出などを体験し、研究を進める。	【年度計画 56-2】 1. 海外渡航状況、現地の状況に関する情報収集の実施。 2. 研修方法に関する検討。 3. 資金に関する情報収集、補助事業への申請準備。 「評価指標」 ・研修の実施状況 【年度計画 57-1】 1. 食育や減塩の対策の具体的な展開について、見学もしくは体験を行う。管理栄養士をめざす本学科学生と住民の交流を進める。 2. 特別研究費にて、コロナ禍の食生活	I	会において講師を務めた。 ・地域医療機関・医師会からの依頼である性教育推進において、品川区内三浦医院院長を中心とする性教育推進グループに携わり、研修会運営、研修会講師を務めた。2SK 会メンバーも参加した。 ・品川区立第三日野小学校 小学 2 年生の生活科授業における見学サポートを行った。 1. コロナ禍によりバングラデシュとの往来が制限され、本プロジェクトはほぼ活動できていない状況である。令和 5 年 3 月現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4 月から日本語学校が開校する。 2. 研修方法に関する検討は実施できなかった。 3. 資金に関する情報収集として、「令和 5 年度医療技術等国際展開推進事業公募説明会」のオンデマンド配信を視聴した。バングラデシュは事業対象国リストに入っており、加点されないことが確認できたため、他の資金源を検討する必要があることがわかった。 ・研修は実施できておらず、達成状況は著しく低い、渡航制限の緩和による状況の改善に伴い、活動の再開を検討したい。			
		IV	1. 自主的な料理教室 8 回に学生が参加し、24 名の学生が体験した。高齢期の男性との協働作業とコミュニケーションにより、学生と住民の交流により多くの学びを得ることができた。 2. 世田谷区民を対象とした、自主的な男の料理教室の参加者を対象にコロナ禍の食生活に関するアンケートを取った。4 グループ（約 50 人）。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
「評価指標」 ・食の自立と減塩対策の実践研究状況 【計画 57-2】㊦ 日本バングラデシュ友好病院（J B F H）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（J B F N I）における指導者層を対象とする研修を実施する。 「計画達成のための方策」 日本バングラデシュ友好病院（J B F H）及び日本バングラデシュ友好看護師養成学校（J B F N I）における指導者層を対象とする研修について、当初の計画を見直し現実可能な方策を検討し、令和 5 年度に現地スタッフに対する研修を何らかの形で実施する。 「評価指標」 ・研修の実施状況 ○医療保健学部医療情報学科 【計画 58】㊦ 令和 3 年度に締結した本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働で AIoT の医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。 「計画達成のための方策」 本学医療情報学科と秀傳医療グループとの協定にもとづき、協働で AIoT の医療応用に関する国際論文の掲載又は知財権の取得を行い、その成果を学生にも還元する。	調査を実施する。 「評価指標」 ・食の自立と減塩対策の実践研究状況 【年度計画 57-2】 1. 海外渡航状況、現地の状況に関する情報収集の実施。 2. 研修方法に関する検討。 3. 資金に関する情報収集、補助事業への申請準備。 「評価指標」 ・研修の実施状況 【年度計画 58】 双方関係者向けのクローズドなオンライン勉強会を行う。その一部を学生にも授業の一部として還元する。	I	アンケート調査結果については検証中である。 ・医療栄養学科では本計画以外にも同様の社会貢献活動を複数実施している。そこで、次年度から、本計画を「地域への社会貢献活動の推進」に発展させ、本活動も他の社会貢献活動と共に、その中で進めていく。 ・コロナ禍のため 2020 年以来、バングラデシュとの往来が制限されて、バングラデシュからの介護士の受け入れが激減し、WG の活動はほとんど停止している。 現在、ダッカでの高齢者介護施設は建築中で、4 月から日本語学校が開校する。またバングラデシュからの介護士、看護補助者の受け入れも増えるので、WG の活動も再開される予定である。			
		IV	・産業 DX 補助事業の一環として秀傳医療グループの劉副院長（五反田）、台北医学大学の王副看護部長（オンライン）にご講義いただき、医療保健学部 3 学科から 103 名の学生が受講した。また、劉副院長のご講義は計画 15-1 の書籍にも収載した。 また、3 月 20～22 日の 3 日間、他学科等を含め 4 名の学生が台中市の劉傳医療グループの病院・施設を訪問した。今後も交流を継続していきたい。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3 件、6 名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2 件、約 6 0 名 ○東が丘看護学部 【計画 59-1】㊦ 目黒区との共催で実施しているひがしが丘保健室の年間の総来場者数を増加させる。 「計画達成のための方策」 1. ひがしが丘保健室の開催。 2. ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の発行。 3. 出張型ひがしが丘保健室の開催。 「評価指標」 ・ひがしが丘保健室の年 1 回開催 ・ひがしが丘保健室便り（過去の参加者へのお便り）の年 4 回の発行 ・出張型ひがしが丘保健室の年 2 回開催 ・ひがしが丘保健室来場者の参加した各コーナーの満足度の平均：95.0% 【計画 59-2】㊦ 地域母子保健活動として、妊娠期から	「評価指標」 ・海外における短期研修の訪問件数・参加者数：3 件、6 名 ・海外からの短期研修等の受入件数・来訪者数：2 件、約 6 0 名 【年度計画 59-1】 1. ひがしが丘保健室便りの継続発行。 2. 小規模出張型のひがしが丘保健室の開催。 「評価指標」 ・ひがしが丘保健室便りの年 4 回の継続発行 ・小規模出張型のひがしが丘保健室の開催（感染状況を考慮して 1 回）	Ⅲ	1. 令和 4 年度 5 月に地域住民に対し、本学院生がひがしが丘保健室便りを 200 部作成、発送を行った。目黒区民 114 部、世田谷区民 56 部、その他 30 部であった。今回の便りは認知症予防・認知機能の向上がテーマであった。内容について、「良い」または「大変良い」を合わせた回答が約 84%であった。今回から動画を取り入れ、90%の人が今後も動画コンテンツを希望するなど、高評価であった一方で、QR コードを読み込めなかった人が 40%いたなど課題も見えたため、動画視聴の仕方を詳しく説明するなど引き続き改善していく必要がある。一方で評価のためのアンケートの回収率は 13%と低く、切手代が回答者の負担となっていることも理由の一つと考えられ、こちらについても検討の必要がある。 ・小規模出張型のひがしが丘保健室の開催が実現し、ひがしが丘保健室便りの発行回数が減少した。 2. 院生が主体となって目黒区の地域における自立支援イベント「支え合い・いどばた会議」に参加し、2 つ以上のことを同時に行う「マルチタスクトレーニング」による認知症予防の健康教育を企画・実施した。住民からは笑顔も見られ、和やかな雰囲気となり 「アンコール」の言葉を頂いた。 ・人的資源や費用面、依然としてコロナの影響もあり、今後も大規模な保健室の開催は難しい可能性が高いため、【計画 59-2】、【計画 59-3】を重点的に行っていくことで地域に継続的な貢献を行い、地域住民に認知していただけるように努めたい。小規模出張型の保健室の評価指標が曖昧であったため、今後は可能であればアンケートなどを取って評価していきたい。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
の切れ目のない母子への支援をさらに強化する。また、“まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。 「計画達成のための方策」 1. 実施している“まちの助産室”を、妊娠期のパパママ教室、その後、産後・子育て期へと継続的に実施できる体制へと整備し、さらに、大学院教育との連携として、大学院生も参加する。 2. “まちの助産室”活動の評価として、データをまとめ、母子保健に関連する学会などにて発表を行い、地域母子保健事業と助産師教育へ役立てる。 「評価指標」 ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況 【計画 59-3】 大学の国際化を進め地域の国際化に寄与する。 「計画達成のための方策」 1. 学生・教員に係る海外派遣・海外研修等を実施する。 2. 海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会を積極的に推進する。	【年度計画 59-2】 1. 中学生に対する思春期性教育の実施を継続する。 2. まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施を継続する。 3. まちの助産室：産後クラスの実施を継続する。 4. 活動を関連学会で公表し、教育に役立てる。 「評価指標」 ・中学生に対する思春期性教育の実施状況 ・まちの助産室：妊娠期パパママクラスの実施状況 ・まちの助産室：産後クラスの実施状況 ・関連学会での活動の公表状況 ・自治体との連携状況 【年度計画 59-3】 1. 全学委員会と連携し、学生の海外研修の参加募集・PR を積極的に行う。 2. 現地開催・オンラインの双方に学生が円滑に参加できるよう支援す	Ⅳ	1～4. 全国の自治体の母子に対して、1 回 1 時間のオンライン母子支援プログラムとして、ベビーマッサージ、童歌、母乳相談、育児相談、座談会を行った。開催数は 9 回であり参加者数は 54 組 101 名（双子 3 組）であった(2 月末までの算出)。今年度も昨年と同様に、対面ではなくオンラインに方法で実施した。ICT を用いて育児中の母親の抑うつおよび悩みを軽減することができた。また、その実践報告を 26th East Asian Forum of Nursing Scholars で公表した。学部生および大学院生の見学により地域貢献を学ぶ教育機会となった。 また、小児看護領域では、親子を対象に『楽しくアロマ石鹸作り』を企画しました。好評のため 3 回（4/29, 8/24, 3/4）にもわたり実施し、親子合わせて 159 名の参加がありとても喜ばれました。				
		Ⅳ	1～4. 選択科目国際看護学Ⅱの授業展開を初めて実施した。英語 TOEIC を受けた学生から選択。自調自考の精神を発揮し、全てシラバスにある目標を達成するために 2 人から 3 人のグループを作り、日本にある国際機関の調査、施設訪問し、現在の日本に於いてより良く外国人に支援・対応するためにどう関われば良いか。自分達の課題を問い直し目標化する。クラスで発表し討議して纏める。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
3. 海外の看護系大学と学術交流を推進する。 「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況 ○立川看護学部 【計画 60】㊦ 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保する。 「計画達成のための方策」 国際交流研修の申し込み人数を一定数確保するため、学年担任や全学生に対して積極的にPRを進めていくとともに、参加した学生の研修結果をメール配信するなど、学生が興味関心を引くような情報提供や研修参加者の声を伝えていく。 「評価指標」 ・国際交流研修の申し込み状況 ○千葉看護学部・看護学研究科 【計画 61-1】㊦ 地域との協働・共生に関する理解を深める。 「計画達成のための方策」	る。 3. 海外からの講師の招聘による講演会はFD委員会等と連携し開催する。 4. オンライン海外研修の評価の学会公表により、多文化共存の研鑽に役立てる。 「評価指標」 ・学生・教員に係る海外派遣・海外研修等の実施状況 ・海外からの留学生・研究生等の受入れ、海外講師による講演会の実施状況 ・海外の看護系大学と学術交流の状況 【年度計画 60】 国際交流研修の申し込み人数 2 人/年または 2 人/回をめざす。 「評価指標」 ・同左 【年度計画 61-1】	Ⅳ	・学生は町の中で知らない外国人へ自分達が作成した英語の質問肢に基づき、働きかけをし、調査を実施纏めた。 ・海外からの留学生・研究生はコロナ禍で期間的に難しかった。 ・海外の講師活用に付いては大学院NPコースに於いて、ズームによるクラス全体の講義を聞いた。 ・オーストラリア研修への参加は、4 年生 1 名だけであったが、ハワイ研修については、学長裁量経費の補助もあったため、参加者は 13 名（3 年 11 名、1 年 2 名）であった。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
1. 千葉看護学部における『地域連携・共生に関する活動方針』を作成し、活動方針に基づく活動が行われているかを評価する。 【評価指標】 ・ 検討会開催回数（3 回/年）、検討会参加人数（5 人/回）、活動評価結果（1 回/年） 2. 学生が地域との協働・共生を学ぶ環境を支援する。 【評価指標】 ・ ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4 回/年）、各活動の参加人数（5 人/回）、活動評価（1 回/年） 3. 地域貢献及び地域に本学を理解してもらうために地域交流イベントを開催する。 【評価指標】 ・ 地域交流イベント参加人数（100 人）、参加学生数（100 人）、参加教員数（20 人）、参加者の満足度（満足度 70%以上） 4. 学部及び教員が地域のリソースとして活用される仕組みを整え、活用が促進される。	1.『地域連携・共生に関する活動方針』の作成検討委員会を開催し、活動方針について検討する。 【評価指標】 ・ 検討会開催回数（3 回/年）、検討会参加人数（5 人/回）、活動評価結果（1 回/年） 2. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会で実施している事業やボランティア案内などの情報提供を行う。 【評価指標】 ・ ボランティア等の活動に関する情報提供回数（4 回/年）、各活動の参加人数（5 人/回）、活動評価（1 回/年） 3. a. 前年度の振り返りを反映し、船橋市の地域住民・行政・保健福祉機関等と大学がより交流できるイベントを計画・実施・評価する。 b. 船橋市地域包括ケア推進課や社会福祉協議会のメンバーと情報交換を行う。 【評価指標】 ・ 地域交流イベント参加人数（100 人）、参加学生数（100 人）、参加教員数（20 人）、参加者の満足度（満足度 70%以上） 4. a. 教員がリソースとして地域で活用される仕組みを検討する。 b. 学生募集部・事務部と協働し、高校訪問に模擬授業等のニーズを把握	Ⅱ 				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
【評価指標】 ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3 件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1 件/年）、ＪＣＨＯや関連施設からの講師依頼件数（1 件/年）、勉強会等の実施回数（1 回/年）、各参加者の満足度（70%以上） 【計画 61-2】🔴 学際的な共同研究や海外研修等を促進し、成果を発表する。 「計画達成のための方策」 1. 複数領域、学外者及び学際的な共同研究への参加を促進し、成果を発表する。 【評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数 2. 海外研修や学外研修への参加を促進し、その成果について共有する。 【評価指標】 ・研修参加者（教員 1 名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/ＦＤ報告会）、成果共有による評価 【計画 61-3】🔴 千葉看護学研究科として住民のニー	し、適切な教員を派遣する。 【評価指標】 ・高校からの模擬授業等の依頼件数（3 件以上/年）、地域からの講師依頼件数（1 件/年）、ＪＣＨＯや関連施設からの講師依頼件数（1 件/年）、勉強会等の実施回数（1 回/年）、各参加者の満足度（70%以上） 【年度計画 61-2】 1. 年度末の学部活動報告会等で情報共有を行う。 【評価指標】 ・複数領域、学外者及び学際的な共同研究件数、発表件数 2. a. 本学主催の海外研修の参加を推奨する。国際交流委員会が把握するイベントや単発の研修会等の情報発信を行う。 b. 年度末の学部活動報告会で情報共有を行う。 【評価指標】 ・研修参加者（教員 1 名以上/各回海外研修）、研修内容とその評価（参加教員数/ＦＤ報告会）、成果共有による評価	Ⅳ Ⅲ	・高校から依頼の模擬授業を 9 校で実施した。熱心に参加する生徒が多かった。 1. 活動報告会において情報共有をしたが、部分的な情報共有となった。別途、アンケートを実施し、その結果を情報共有していく。 ・複数領域の共同研究：課題件数 0 件、発表 0 件 ・学外者との共同研究：課題件数 33 件、発表 7 件 ・学際的な共同研究：課題件数 4 件、発表 4 件 2. 9 月にオーストラリアのグリフィス大学（研修参加者学部生 1 名/教員 2 名支援教員）、3 月にハワイのシャミナード大学（研修参加者学部生 2 名・大学院生 1 名・教員 1 名/教員 2 名支援教員）とオンライン留学を実施し、学生参加を積極的に推奨し、情報発信を行った。加えて、「世界の医療ケアを知ってみよう！」との企画のもと、リレー講演会の開催（3 回）などを学内で積極的に参加推奨を行った。 ・年度末に学部活動報告を行い、情報共有を行ったものの、本件に焦点化した成果共有は実施していない。			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	
ズに応える保健医療の連携に貢献する。 「計画達成のための方策」 地域交流イベントにおいて、学生を主体とする企画を実施し、主として西船橋地区住民のニーズに応える保健医療の連携に貢献する。 【評価指標】 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数 【計画 61-4】㊦ 千葉看護学研究科の教職員の教育力を開発する。 「計画達成のための方策」 日々の教育活動に関する情報共有を行うとともに、課題を整理し、多文化共存を視野に入れた研究指導を含めた教育力、大学院での活動を通しての地域貢献力について、研修を実施することで、その向上を図る。 【評価指標】 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数 ○和歌山看護学部・看護学研究科 【計画 62-1】㊦ 臨地実習での多職種連携場面での学びの促進を図るとともに、多職種との交流によりチーム医療を実践できる医療人を育成する。 「計画達成のための方策」 1. 学内教育においては臨地からの多職種の教育参加により、臨地での意図	【年度計画 61-3】 専門職からなる情報交換の会を開催し、ニーズの把握をはかる。 成果を活動報告として紀要等の一つ以上発表する。 【評価指標】 専門職からなる情報交換会の開催数、活動報告発表数 【年度計画 61-4】 大学院担当教員・職員を対象とした情報交換・研修会・授業参観を、年 2 回開催する。うち 1 回は他研究科との合同研修とする。主たるテーマは情報共有とする。 【評価指標】 大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会等の開催回数、地域貢献力に関する報告の数 【年度計画 62-1】 1. チーム医療・多職種連携に関して実習計画に反映し、実施する。	Ⅱ	・地域交流イベントにおいて学生を主体とする発表を行った：1 回 ・本発表を実践報告として次年度（令和 5 年度）紀要ならびに JCHO 学会に発表予定である。			
		Ⅱ	・和歌山看護学研究科との共催で「修士論文作成における学びの過程と指導・支援のポイント」と題して大学院 FD 研修会を行った。千葉看護学研究科教員 21 人、事務職員 1 人の参加があった。 ・千葉看護学研究科としての情報交換・研修会・授業参観の開催はなかった。 ・令和 5 年度は、大学院担当教員を対象とした多文化共存をめざした検討会に取り組んでいく			
		Ⅱ	・コンソーシアム和歌山からの各種フォーラムや合同研修、タウンミーティングなどの情報を得た。講義・演習ではゲストスピーカーとして多職種の参加を得て実施し、			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議	
		評価 区分	評価 区分		評価 区分	評価 区分
的な多職種連携の体験する機会をつくる。 2. 多職種・他大学学生とチーム医療・他職種連携の体験を共有する機会を設ける。 【評価指標】 ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況 【計画 62-2】㊦ 地域の教育機関、保健医療福祉施設、自治体等との共同体制の下、医療・福祉・保健面における社会貢献を積極的に推進する。 「計画達成のための方策」 1. 本学部の社会貢献の実践・可能性を発信し、異分野の大学との共同研鑽を行うとともに地域のニーズに応じた社会貢献を実践する。 2. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に参画する。 【評価指標】 ・情報発信と社会貢献の実践数、I C Tを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 ○助産学専攻科 【計画 63】㊦ キャンパス教育環境向上プロジェクトを推進する。 「計画達成のための方策」 1. 学生が地域貢献できる学修環境の実現。 2. 連携・共生の在り方を学ぶ。	2. 近隣大学との教育連携を呼びかける。 3. 可能な領域でチーム医療・多職種連携に関する体験の機会を設ける。 【評価指標】 ・近隣大学との連携状況、多職種連携状況、実習での体験状況、演習での実施状況 【年度計画 62-2】 1. 本学部の活動を発信する。 2. I C Tを活用した会議の効果的な活用を行う。 3. コンソーシアム和歌山の教員及び学生の共同研究に応募し、1 件以上採択を得る。 【評価指標】 ・情報発信と社会貢献の実践数、I C Tを活用した会議数、コンソーシアム和歌山の共同研究採択状況 【年度計画 63】 事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材育成を育成する。	Ⅳ	実習においても目標として掲げ、臨地において体験している。 ・公開講座を和歌山市と共催で実施し、学生ボランティアの参加を経て他職種とともに地域貢献している。 ・コンソーシアムの各種企画に参加者がいなかった。次年度は参加者を増やすための呼びかけを行うほか、他の AP 等の活動とコラボできるよう検討したい。共同プロジェクト事業に 1 件が採択され活動している。講義・演習・実習において各領域において多職種連携の体験をしているので、情報共有していく必要がある。和歌山市と共催し、公開講座を実施した。 1. 情報発信するためのニーズ調査を行った。学内の様子など情報発信についてはインスタグラムやホームページを用いて発信し続けている。 2. Zoom のほかにも複数のコミュニケーションツールの紹介をしている。 3. 令和 4 年度の学生の共同研究には応募がなかったが、共同プロジェクト研究に応募した。 ・情報発信ツールについては、高校生はインスタグラム、高齢者は Facebook やチラシから情報を得ていることがわかった。さらにネットワークを拡大して本学の魅力を発信していく。共同プロジェクト研究に 1 件が採択された。			
		Ⅳ	事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材育成を育成する。 1. 訪問型は、報酬が 6000 円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働き			

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況		自己点検・評価委員会		内部質保証推進会議	
		評価 区分		評価 区分		評価 区分	
3. 大学キャンパス内の地域活動の貢献とともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備する。 4. 医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。 「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保　2～3 回／年 ○和歌山助産学専攻科 【計画 64】㊦ 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。 「計画達成のための方策」 和歌山県の抱えるローカル化の問題を解決するために「遠隔診療技術の基礎」を選択科目としたカリキュラム編成を行い、医療情報学科の教授を講師に迎え、あらゆる I C T を駆使し遠隔授業で、僻地医療の問題を解決するための基礎力を養成する。 「評価指標」 ・「遠隔診療技術の基礎」の履修又は聴講状況 ○感染制御学教育研究センター 【計画 65】㊦ 「感染制御実践看護学講座」及び「感	1. 働きやすい職場となるため従事者の待遇改善。 2. 従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持する。 3. 日帰り型、訪問型、電話訪問・電話相談の検討と通所型、外来機能などへの拡大を検討する。 「評価指標」 ・地域母子支援の助産師活動への参加機会の確保　2～3 回／年 【年度計画 64】 ガイダンスで「遠隔診療技術の基礎」の選択の必要性を説明し、学生全員が履修又は聴講する。 「評価指標」 ・同左	Ⅳ	やすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000 円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルで実施しているが、従事する助産師 1 人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アプネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持を図っている。 3. 日帰り型はこれまでホテルでの運営としてきたが、通所型として、外来機能などへの拡大を検討して、ホテル 1 部屋で 1 人/日としてきたが、保健センター内での診療スペースを確保して頂き、そちらで 2 人/日として、診療する対象者数を 2 人とする予定としている。 ・ガイダンスで当該科目の意義を説明したところ全員が選択した。 ・授業アンケートでは「基本的な専門知識」「新しい考え方や発想」「発展的な学び」「総合的に満足」の問いに全員が「思う」と回答した。助産学実習Ⅲ（両親学級の企画・運営）をハイブリッドで行ったが、方法だけではなく、法律や注意点について理解できたという声を学生から聴けた。				

第 3 期中期計画	令和 4 年度計画	令和 4 年度計画達成状況				自己点検・評価委員会	内部質保証推進会議																				
		評価 区分						評価 区分																			
染制御学企業人支援講座」を継続する。 「計画達成のための方策」 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。 「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数 〇産後ケア研究センター 【計画 66】㊦ 大学キャンパス内外の地域活動に貢献するとともに、活動状況の広報を行い、さらなる拡大を目指し整備するとともに、医療機関にはできない訪問型のきめ細やかなサービスの提供、地域的なニーズにも沿った対応ができる体制の構築を整える。 「計画達成のための方策」 1. 産前産後ケア事業〔助産師による専門的支援の実施（訪問型）〕の推進。 2. 品川区役所や産科医療機関との連携強化事業の強化（情報交換など）を図る。 「評価指標」 ・日帰り型 190 件／年→280 件／年への増加 ・訪問型 200 件／年→280 件／年への増	【年度計画 65】 「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」を、社会貢献のひとつとして、ニーズのある限り継続していく。 「評価指標」 ・「感染制御実践看護学講座」及び「感染制御学企業人支援講座」の開催状況及び受講者数 【年度計画 66】 事業継続のため、地域のニーズに応えることのできる継続従事者となる人材を育成する。 1. 働きやすい職場となるため従事者の待遇改善。 2. 従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持する。 「評価指標」 ・日帰り型 190 件／年→280 件／年への増加 ・訪問型 200 件／年→280 件／年への増	IV	・令和 4 年度は「感染制御実践看護学講座」では 23 名が所定の課程を修了し同数が「感染制御実践看護師」の資格を取得した。 ・「感染制御学企業人支援講座」は 2 名の企業人が参加し、所定の課程を修了した。																								
		III	1. 訪問型は、報酬が 6000 円で交通費がでないので従事希望者が少ないために、働きやすい職場となるよう従事者の待遇改善として記録をする時間の確保を含め、2000 円の追加を実施している。 2. 日帰り型はホテルで実施しているが、従事する助産師 1 人での対応となる。そのため、事故防止のため、開始前後の事務への連絡を対象者の前で実施すること、乳幼児突然死予防のため、アプネアマットセンサーを導入し、従事者が働く場の安全の確保と心の安寧を維持を図っている。 「評価指標」実施件数 <table><thead><tr><th></th><th>令和元年度</th><th>令和 2 年度</th><th>令和 3 年度</th><th>令和 4 年度(2 月時点)</th></tr></thead><tbody><tr><td>・日 帰</td><td>325</td><td>162</td><td>228</td><td>223</td></tr><tr><td>・訪 問</td><td>344</td><td>127</td><td>194</td><td>202</td></tr><tr><td>・電話相談</td><td>639</td><td>925</td><td>367</td><td>348</td></tr></tbody></table>				令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度(2 月時点)	・日 帰	325	162	228	223	・訪 問	344	127	194	202	・電話相談	639	925	367	348		
	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度(2 月時点)																							
・日 帰	325	162	228	223																							
・訪 問	344	127	194	202																							
・電話相談	639	925	367	348																							

令和4年度公開講座実施結果

	品川区①	品川区②	世田谷区	目黒区	立川市	船橋市	和歌山市
令和4年度	こみゆにていぶらざ八潮	五反田キャンパス	世田谷キャンパス	国立病院機構キャンパス	国立病院機構立川キャンパス	船橋キャンパス	雄湊キャンパス
	(中止)	令和5年2月25日(土)	令和4年11月19日(土)	令和4年12月10日(土)	令和4年12月10日(土)	令和4年11月27日(日)	令和4年9月10日(土)
	-	医療保健学部 看護学科 教授 渡會 睦子	医療保健学部 医療栄養学科 准教授 梶 忍	東が丘看護学部 看護学科 講師 中村 裕美	立川看護学部 看護学科 教授 村松 仁 助教 小川 賀恵	千葉看護学部 看護学科 准教授 渡邊 章子	和歌山看護学部 看護学科 教授 土井 一浩
	-	1. 大人と子どものメンタルヘルス ～子どもの思春期、男性・女性の 更年期をうまく乗り越えよう～ 2. 医療系大学を知ろう！	健康長寿を生き抜くための秘訣	児童・思春期のメンタルヘルス ～「子どもと向き合う」ということを 共に考える～	やってみよう！自分でできる ストレスマネジメント	1. ずっと元気でいられる食事： 楽しく・上手に・しっかり飲み込む 2. ヤングケアラー（18歳未満の介護者）って なに？～誰の介護をしているの？～	「感染症対策、大丈夫ですか？」 ～長引くコロナ禍でも正しい対策で 乗りきろう～
参加人数	-	328名	40名	対面:9名、オンライン:26名	対面:17名、オンライン:10名	69名	16名
令和3年度	こみゆにていぶらざ八潮	五反田キャンパス	世田谷キャンパス	国立病院機構キャンパス	国立病院機構立川キャンパス	船橋キャンパス	雄湊キャンパス
	(中止)	令和3年9月25日(土)	令和3年12月4日(土)	令和3年11月27日(土)	令和3年9月11日(土)	令和3年12月12日(日)	令和3年9月11日(土)
	医療保健学部 医療栄養学科	医療保健学部 看護学科・ 大学院医療保健学研究科 教授 菅原 えりさ	医療保健学部 医療情報学科 教授 今泉 一哉	東が丘看護学部 看護学科 准教授 玄 順烈	立川看護学部 看護学科 准教授 田野 将尊 助 教 小川 賀恵	副学長・教授(非常勤) 船橋中央病院 院長 山口 武人 先生	和歌山看護学部 看護学科 准教授 佐藤 るみ子
	-	「新型コロナウイルスと生きる Part2 ～明るい未来までもう少し！？～」	「ポストコロナの健康長寿・ フレイル予防とテクノロジー」	「子どものネット依存！ 家庭でできる予防と対策」	「コロナ疲れとの上手なつきあい方 ～健やかな睡眠へのいざない～」	「コロナ禍におけるがん予防 ～検診と生活習慣の視点から がん予防を考える～」	「コロナ禍でもこころを笑顔に！」
参加人数	-	オンライン:145名	対面:14名、オンライン:8名	対面:1名、オンライン:9名	対面:8名、オンライン:13名	対面:38名、オンライン:3名	31名
令和2年度	こみゆにていぶらざ八潮	五反田キャンパス	世田谷キャンパス	国立病院機構キャンパス	国立病院機構立川キャンパス	船橋キャンパス	雄湊キャンパス
	令和2年6月20日(土) (中止)	令和3年2月28日(日)	(中止)	令和3年1月30日(土)	令和2年11月21日(土)	-	令和2年9月12日(土)
	医療保健学部 医療栄養学科 教授 豊田 英敏	医療保健学部 看護学科・ 大学院医療保健学研究科 教授 菅原 えりさ	医療保健学部 医療情報学科	東が丘看護学部 看護学科 助教 日高 未希恵	立川看護学部 准教授 田野 将尊	千葉看護学部 ※船橋市から要請があった場合 開催を検討する。	和歌山看護学部長・教授 八島 妙子
	「輝く子供達のために～これからの学校 教育が目指す学力とは～」	「新型コロナウイルスと生きる～新しい 生活様式、慣れましたか？」	-	一緒に考えませんか？「少子高齢化・ 人口減少社会」への備えは「じぶんごと」	「うつを知ってこころの健康づくり」～自 分のこころと対話していますか？～	-	「あらっ！これって認知症？」
参加者数	-	オンライン191名	-	対面2名、オンライン31名	33名	-	50名
令和元年度	こみゆにていぶらざ八潮	五反田キャンパス	世田谷キャンパス	国立病院機構キャンパス	国立病院機構立川キャンパス	船橋キャンパス	雄湊キャンパス
	令和元年6月29日(土)	令和元年11月16日(土)	令和元年10月5日(土)	令和元年12月7日(土)	令和元年10月26日(土)	-	令和元年9月21日(土)
	医療保健学部 医療情報学科 教授 比江島 欣慎	医療保健学部 看護学科 准教授 大金 ひろみ	医療保健学部 医療栄養学科 准教授 清水 雅富	東が丘・立川看護学部 看護学科 臨床看護学コース 講師 浦中 桂一 東京医療センター 診療看護師(JNP) 忠 雅之	東が丘・立川看護学部 看護学科 臨床看護学コース 講師 浦中 桂一 災害医療センター 診療看護師(JNP) 高以良 仁	千葉看護学部 看護学科 教授 清水準一	和歌山看護学部 看護学科 教授 松月 みどり
	「暮らしから生まれるビッグデータは 色々活用されていますよ」	「その終活、大丈夫？」 ～住み慣れた地域で自分らしく 暮らすために～	「死ぬまで健康で いるための食事」	「脳卒中で困らないために」 ～まさかより もしやで受診～	「知っていますか？災害時のこと」 ～東京医療保健大学と災害医療セ ンターの協働について～	※船橋市から要請があった場合 開催を検討する。	「災害の備え～健康に配慮した 避難所づくりのために～」
参加者数	25名	76名	67名	32名	26名	-	43名